

はじめに

21 世紀へ向けての最も特徴的な流れは、パソコンとネットワークを軸とした情報化社会への急進展でありましょう。十数年程前にメーカーや地方自治体を中心となってニューメディア実験が進められましたが、ハードやシステムの検証に主体が置かれ実験の域を出ませんでした。しかし、現在ではパソコンの普及が 20%に届く状況となり、インターネットの活用も地球規模で展開され、マルチメディアが日常生活の道具になって参りました。

2005 年を目指すネットワークインフラ整備は、双方向コミュニケーションの実現を促し、地域コミュニティ活動や文化芸術活動などへの市民参加を自然なものとするでありましょう。そしてユーザ主導・ソフト主導で個人レベルでの双方向対話が展開され、莫大な情報の海からの取捨選択を通して個人個人の見識も広がるなど、生活から社会まで巾広く影響を与えながら、確かな足取りをもって情報化社会本来の姿に向うものと思われれます。

その中であって「音」は人間のコミュニケーションに不可欠な要素であります。音声や音楽をはじめとした音の活用のあり方・扱い方についても、マルチメディア社会に違和感なくとけ込んだものにする必要があります。この様な状況下、音に関連した現況の整理・検討を通して今後の動向を考察することは意義あることと推察し、本報告書はまとめられています。

最後に、本報告書の作成にあたりまして、調査研究にご協力戴きました関係各位に深く謝意を表しますとともに、本報告書が情報化社会の更なる発展に少しでも寄与出来ますれば幸いです。

平成 10 年 2 月

財団法人 サウンド技術振興財団

理事長 河合 弘 隆

((株)河合楽器製作所代表取締役社長)